第２回 zoom 例会の感想　　2020.７.２５

With コロナの中での教育課程～子どもに「寄り添う教育」を考える～

○　昨日は貴重な時間を提供してくださりありがとうございました。
いろいろな先生の話を聞く中で，寄り添うについていろいろな視点をいただくことができました。昨日の研修会をもとに自分なりの考えをまとめましたので送付させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

「寄り添う」について
①寄り添う土台に「愛情」があること
・長所や短所を含めて相手を肯定的にみること
・子どもの個性を認め「伸ばしてあげたい」という思いをもっていること
②児童理解
・子どもの思いや願い，困り感等を理解すること
・子どもの背景を理解すること（保護者の思いや願い・家庭環境を理解すること）
③適切な支援・指導を行うこと
・子どもが自分の個性の生かし方に気付き，周囲の友達から認められる場を作ること
・子ども自身が気づいていない「よさ」に気付かせること

※「個性」とは集団の中でその子がもつ特徴的な部分だと考えます。
「よさ」とは，子どもが集団の中で自分の個性を時と場に応じて，適切に発揮することだと考えます。

○昨日はありがとうございました。
確かに方法は沢山ありますが，大事なことは，教師側の構えだと思っています。芝田先生が思われている通りではないかと。
昨日の話を聞きながら，いかに子供主体で考えるか，子供が少しでも主体的に動きたいと思えるように支えたり，指導したりできるかが大事なのではないかと思いました。
そう考えると，授業でも生活でも教師が考えなくてはいけないことは同じに見えてきて，「寄り添う」も捉えやすいかなと思いました。

○私は，寄り添うとは，まず，相手をよく知るということであると考えています。
一部分の，一面的な把握ではなく，多面的・多角的に理解するということです。
具体的に言うと，その児童生徒の特性，発達段階，育ってきた環境，置かれている環境，その上での現在の様子などを知ることです。
また，現在の状況は，日々，変化しているということも踏まえておく必要があります。
こういったことを把握しないままで接すると，教師個人の価値観だけで関わり，寄りそうことはできません。
教科指導も生徒指導も児童生徒理解が前提です。

結局，寄りそうためには，次のことが必要ではないでしょうか。

○　多面的・多角的に捉える！
○　特に特性を理解する！
○　一人一人の可能性を信じる！
○　認めて，ほめて，それから，教える！
○　カウンセリングマインドで！

呉南特別支援学校　竹野政彦

〇おはようございます。昨日はありがとうございました。皆さんのお話を聞きながら，寄り添うということを広く，深く考えることができるようになりました。対話によって多面的に捉えられるようになったということ？！学びが深くなった？！ということでしょうか❣本当にありがとうございました☺
寄り添うということは，勿論，困っている子どもに対して必要不可欠なこととして，教師は当たり前のようにしているのではないかと思います。昨日はその方法を沢山教えていただきました。今まで自分が取り入れていなかったこともチャレンジしてみようと思います。
教師のあり方として皆さんのお話を聞きながら感じていたのが，子ども同士の寄り添いです。まとまらなかったので話題に出せませんでした。
気になる子どもへの教師の寄り添いを他の子どもたちはそばで見て，感じています。

教師から見たら気にならない子どもたちも，実は寄り添ってほしいと思っているのではないかと思います。
その子どもたちへの寄り添いも同時に！そして子ども同士が寄り添い合うクラスにしないと，子ども同士の人間関係が不安定になるのではないかと！寄り添いをえこひいきと感じる子どもがいたら，担任との信頼関係は築けません。心を尽くしているのに学級崩壊のきっかけになることもあるかもしれません。
ちょっと怖い話に行きすぎましたが，全ての子どもたちに寄り添うスタンスが必要だと感じました。目の前にいるこの子にも，あの子にも，表面的なことだけでなく，昨日のお話に出てきた，認めて，理解しようとすることができるといいなと思います。

結局，教師の仕事って，この気持ちがベースになるのでしょうか？❣

その教師姿を見て，子どもたちも周りの仲間に寄り添い，認め合って，心地よい人間関係を作っていくようになるのではないかと思います。
私の捉え方は偏っているかもしれませんので，いい具合に編集してください。
寄り添ったことが役に立ったかどうか，今の一瞬，その子が認められたと感じたらそれでいいと思っています。相談に乗っても困った時のよりどころで，その子やその保護者にと

っての黒子であれば良いと思っています。あとは自分の自己満足で，お陰様で自分の心がその分温かく人間らしくなったと感じられたらいいかな❓❣と

〇芝田先生夜分に失礼致します。今日はありがとうございました。大変勉強になりました。ちょうど７月に入ってから，「寄り添う」という関連の事ですごく悩んでおりましたが，これからやっていく事が具体的になった気がします。
最後，充電が切れてしまい申し訳ありません。また，ご多用の中ご連絡頂いていたにも関わらず返信できずに大変申し訳ありませんでした。次回も，どうぞよろしくお願い致します。
普段関わらない世代の方々の意見を学ぶことは，自分のクラスでそのうちぶつかる問題に活かしていけると思います。このような，知識のストックをしっかりと貯めて学級経営に臨むためにも，今後もぜひ参加させて頂きたいと思います。
また，お時間に余裕がある時には，自分も聞くだけではなく，しっかりと質問や発言をしてみようと思います！

〇昨日のお話の中で，学習面と生活面で分かれていたので，その２つで私なりに寄り添うということについて考えてみました。
　まず学習面では，低位の子を見捨てないという言葉が印象に残りました。そのために，
①極力教科書の拡大コピーや写真など，具体物を活用したり，
②作文や図工等であれば，他の子の意見や作品を「出張」と言う形で途中で見にいってもいい時間を作りたいと考えました。また，
③子ども同士で教え合うミニ先生では，低位の子のためだけではなく，自ら教える事で，学習が進んでいる子の定着にも役立ち，それも進んでいる子の，「学習を深めたい」という思いに寄り添うということなのかなと考えました。
　生活面では，やはり子どものどんな気持ちも，まずは受け入れるということが寄り添うという事なのかなと思いました。
またそのときにも，具体物を活用します。以前，芝田先生にも教えていただいた，板書に時系列で行動や気持ちを書き，子どもと一緒に〇や△と確認していくことを先日実践してみました。気持ちの部分にハナマルをかき，視覚的に先生が気持ちを受け入れたことを見せることで，その後の自分の行動について，子どもも一緒に真剣に考えてくれました。
このように，言葉や視覚からの情報を与えながら，自分の気持ちが受け入れられていることを実感させられるような指導がしたいと思いました。
　また，認めるだけではなく，自分や保護者のこうなってほしいという願いや，期待を伝えた上で，その子自身がどうなりたいのか，考えさせることも大切だと考えました。
例えば，私のクラスに字が汚い女の子がいます。その子のお母さんとお話をした時に，「そろそろ 3 年生だから，字が綺麗になってほしい」という思いをききました。私もその思い

を受け止めたいと思い，その子に対して，ただ「綺麗に書きなさい」と言うのではなく，「先生もお母さんも字を丁寧に書けるようになってほしいと思っているし，（綺麗にかけている漢字ノートの一部分を見せながら）〇〇さんなら出来ると思います。」と伝えました。その翌日から，100%の力（丁寧さ）でテストの字を書いたり，漢字ノートの宿題をしてくるようになりました。きっと，お母さんや先生の期待に応えたいという思いがあったのだと思います。

全員の思いを同じ方向に向け，それを軸とした指導を行うことが，子どもにも保護者の思いにも寄り添うということなのかなと考えました。

〇「寄り添う」についての自分の考えです。

１　その子を認める

・その子の何を認めるのか？生活の仕方，気持ち（喜び・悲しみ・達成感・辛さ・・・），考え，思い，よさ(学習面，生活面，人間関係面・・・）

・これらに気づくために，同じ場に身を置く。

２　その子の認めたことを手掛かりに力を伸ばす

・さらに楽しいと感じられることを広げる

・さらにその子の認めたことを広げる

・さらに，その子の内面に潜むものを引き出す。

・困っていれば，見通しをもたせたり，教えたりする

〇最初に芝田先生の話題提供，最後に竹野先生の締めと，とても贅沢な会でした。
また，様々な立場や視点から寄り添うことについての考えを聞けたことも学びでした。
若い先生が感じていることを聞けたので，自分の立場から現場にどのようなことを還元できるのかを考えるヒントになりました。
ZOOM では，現場の息遣いがないので，司会や進行，画面共有での話の難しさはあると思います。
ただ，新採から大御所と呼ばれる先生方まで，同じ土俵で意見を交換できたのは ZOOM だからこそ可能だったのかなとも思いました。
IT 基本法や個別最適化，Society5.0 など，自分にとってもこの夏休みの宿題をたくさんいただいた気分です。
今回の会をきっかけに学びを深めていけたらと思います。
ありがとうございました。

〇 昨日はありがとうございました。「寄り添う」ということについて，具体的にどういうものなのかよく分かりました。また，たくさんの先生方の考えを知ることができ，とても勉強になりました。また参加したいです。ありがとうございました。

〇昨日は大変お世話になりました🙇♀️🔲
さまざまな立場の先生方が参加しておられ，勉強になりました。
ありがとうございました☺

〇 昨日は，運営，大変にお疲れ様でした。あの人数，あの環境，あの時間の中で，できる限りのことをされていたと感じています。
zoom でのやりとりは，小グループなら話題を対話的に進められますが，大人数だと講義型の方が進めやすいのではないかと感じています。ホストをしたことがないので，機能に詳しくないですが…
この２つの対話型と講義型を使い分けると，参加者も発言でき，学びたいテーマについて講義で知識を得られる構成にできるのかなと感じました。
最後はチャットで振り返りを文字で共有すると，何をどう感じて，何を学んだか可視化でき，発言だけで表現できなかったことが伝えられるのかなと。
後日，感想を取りまとめて参加者に送付するのも開催側の負担があるし，感想も運営側の方だけにとどめず皆さんとリアルタイムで共有すると学びが深まっていいなと感じます。
感想は，画面収録やプリントスクリーンなどで保存して見返すこともできるかなと。
その振り返りの時間を確保して，予定の時間内でおさめるのは至難の技ですが…
昨日は，本当に様々な立場から多面的・多角的な「寄り添う」を分析することができたので，有意義な研修になりました！
また，このような状況下でも研修を深めていきたいですので，今後ともよろしくお願いいたします！

〇研修内容については『コロナの状況下における子どもに寄り添う』がテーマだと自分は思っていたのですが，『子どもに寄り添う』がテーマになっていたなと感じました。☺各々の教育観の話になっていましたので，ただ，新採をはじめ若手教員で不安を抱えている先生にとっては，色々な先生の話が聞けて有意義だったかなと思います。
いろいろな学校が集まっておりましたので，コロナ状況下で学校として，また個人としてこういった対応をして寄り添った。寄り添う動きがある等。意見交換ができたらと思いました。飯田先生の司会進行，コメントの返し方を勉強させていただきました笑
改めて飯田先生と飲みながら色々とお話したいなと思いました笑

〇「寄り添う」ために，結局は深い「子供理解」が必要だと感じました。
とかく，子供の課題ばかり目がいきがちですが，子供のよさや小さな変化を見取り，
子供に伝えること（認め，励まし，褒める）が重要だと思いました。
まずは，子供を知ろうとする姿勢，“あなたに関心がある”というメッセージを忘れず，
日記のやりとりや朝の時間や休み時間の雑談を大切にしたいです。

また，先生方の考えや話を聞いて，“自分は寄り添っているつもりになっていないか“と自問しました。
本当に寄り添うとは，教師の一方的な関わり方（自己満足）ではなく，子供が「先生は寄り添ってくれる，分かってくれている」と思ってもらえるかどうかだと思います。
そのために，カウンセリングの手法を生かした共感的な傾聴スキルが求められると思います。
また，子供の目標をきちんと把握し，伴走者として励ましたり，一緒に課題解決の方法を考えたりすることも大切になってくると考えました。
自分の考え・構えを見つめ直すよい機会になりました。ありがとうございました。

〇これまで，いろんな場面で「寄り添う」という言葉を使ってきましたが，改めて「寄り添う」を考えると分からないことだらけでした。何となく耳障りの言い言葉として使っていましたが，抽象的で曖昧な言葉です。子どもの心に寄り添うことは，物理的な距離というより心の距離が大切なように思います。コロナ禍では子どもたちは学校生活や家庭生活で，大小にかかわらず不安で心配なことがあるかと思います。そこにどれだけ立ち止まり，子どもたちの心に近づけるか，それは子ども理解に他ならないでしょう。
　コロナ禍であってもなくても，子どもの心に寄り添うことは，我々教師の心持ちであり在り方です。先生方にいろいろな意見をいただき感謝しております。